



最高の思い出作り

広島工業大学高等学校
教諭 垣 鰐 拓 史

学校行事とクラス作り

「思い出に残る高校生活を送らせてい。」その一心で、入学式にのぞみます。

オリエンテーションで「3大行事3連覇!」の目標を掲げます。(体育祭・クラスマッチ・学校祭 我が校の三大行事です。)

もう古いやり方だと思いますが、学校行事を中心において30年間、同じスタンスでクラス作りを行ってきました。

困難を乗り越えて

運動が苦手な生徒が集まったクラスを持つと、体育祭やクラスマッチは悲惨な結果となります。しかしここで種をまいておきます。悔しさをあおって、次につなげる方法です。

運動系で結果が出なかった場合、クラスの一人ひとりの隠れた力を引き出すのは、学校祭しかありません。

しかし、学校祭をやることで、クラスの中に溝ができてしまう可能性があります。

例えば、学校祭で苦勞した人の持つ、クラブの試合等で参加できない人に対する感情の問題です。別に意図して差別しているわけでもないし、それぞれいろんな事情があるのも分っていても、おなじ体験を共有できなかったという想いです。

この問題は、簡単に解決しました。HR通信で彼らの活躍を大々的にみんなに知らせることをしました。朝のSHRでは、自然と拍手がわきます。逆にみんなの取り組んでいる姿を写真に収めて毎日HR通信を発行し、意識

を共有しました。すると、クラブが終わっても教室で作業をしていたら手伝ってくれる生徒も現れ始めました。

次の問題は、初めてのことなのでなかなか協力して作業するレベルに達しないということです。どうしても、1人が2人が突出する形で作業が進んでいって、他の生徒は遠巻きにしてそれを見ているという構図になります。それで必死で頑張っている人が何でも自分で決めてしまうので、他の人はだんだん面白くなってきます。「どうせお前が全部気に入るようにするんだろ。」というような感情の問題です。

この問題は、こちらから意図的にリーダーを作ろうとしてもうまくいきません。(代わりに私がリードした時は、良い作品とはなりませんでしたが)この時生まれたリーダーは強力でうまく指示を出し、まわりに配慮ができる生徒が多かったようです。

精神力も、時間も随分使ったので、満足感がある反面、疲労感もあります。それで自分達のやったことに点数がつけられます。勝者と敗者ができるので、負けたわけではないにしても、

他から低い評価を受けることになった生徒は、「結局なんだったの?」と感じるでしょう。なんか上手に乗せられたけど、疲れただけと感じる生徒や、他人の思惑で動くのはもう止めたいと思う生徒が出てきます。

クラス集団では本質的にみんなで集まって何かをやるのが好きでない生徒の比率が高いので、こういう問題が表面化しやすいのです。行事が終わって多くの生徒が満足感と虚脱感の混ざった状態にあるときに、これらの感情をうまく処理できないと、次の行動には進めないと思います。

しかし歴代の強力なリーダーは、「打ち上げ」と称した反省会orパーティーを開催し、うまくまとめてくれました。(当然担任の知らないところで)



2005クラス「スフィンクスとピラミッド」



「自由の女神とモアイ像」

はききったものの 時間が足りず めんどくさいが まあいっか しかたねえ 手っ取り早く	不器用だけど たまにはやるぜ 一生懸命 Pricelessな 長い人生を のびのびすこす	すばらしき この工大高校 できるかぎり 好きでいたい
-----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------	-------------------------------------

生徒の落書きより



生徒が描いた似顔絵です



2006クラス「MANEKI神社」 優秀賞 受賞

クラス一丸となって

難しいことに挑戦して、みんなで協力することで一体感が高まったし、技術力も向上しました。参加した生徒は少なからずその実感があるはずです。たとえ賞が取れなくても、自分が全力で取り組んだという達成感があるに違いありません。これはやらないと得られない、多分一番大切な収穫です。

クラスのみならず、より本音が出やすい形でコミュニケーションできて、お互いの本質がよく分ったはずですが、くだらない会話を幾ら積み重ねてもこういう体験はできません。部分的にぶつかったとしても、全体としては信頼感や、一体感が高まったと思います。

それから、自分達のやったことをち

ゃんと反省して評価することで、将来の物事への取り組み姿勢や能力が向上することでしょう。全体のなかの自分という位置づけもはっきりしたし、前向きな生徒は新たな目的を見つけることが出来たはずで。何となく高校生活を送ってマンネリを感じていた生徒には転機になるでしょう。また、人に動かされる立場ではなく、人を動かすときのことにも目を向けられるようになったと思います。

何かに積極的に取り組んだり、打ち込んだりすることで、どんどん自らの地平線が開けていくと思います。行動の一つ一つが自分の新しい世界を開く礎になっているのかもしれない。



2007クラス「空飛ぶクジラ」 優秀賞 受賞



2008クラス「階段アート」 優秀賞 受賞



2009クラス「模擬店」



2010クラス「噴水」 優秀賞 受賞



2011年「プラネタリウム」 最優秀賞 受賞

最後に

どの写真も、満足感が漂っています。

自信に満ちた顔、満足した顔、自慢げな顔。こんないい顔をしている生徒たちを見るのが大好きです。

できあがるまで不安の毎日。しかし、誰もが予想していた以上に立派なものができ上がったときの生徒の顔。

このクラスで一緒にいられる時間を大切に共有してくれることを願って…。